令和7年度人権啓発活動地方委託事業

## やさしいじんけんシアター



### 令和7年12月7日(日)

午前の部 いぶき館大ホール 定員330名 10:00~(受付 9:30~)

午後の部 コンパス小野川ホール 定員170名 14:00~(受付 13:30~)

入場無料/申込先着順(申込開始日11/10(月)~)

②電話



【必要事項】

代表者氏名・電話番号・参加人数 上映回 午前の部または午後の部

申込・お問い合わせ 香取市 市民協働課 電話:0478-54-1138





この映画は、たんなる出産ドキュメンタリーなどではなく、 出産を切り口にした『親子の物語』なのだと思う。 親に、深く、深く、感謝した。

#### 乙武洋匡

(作家)

私に関わってくれるすべての人に 「本当に本当にありがとう」と言いたくなりました。 また政治家という立場からも 何ができるか考えさせられる映画でした。

#### 小渕優子

(衆議院議員 元少子化対策・男女共同参画担当大臣)

すべてのプレパパ、イクメン予備軍は この映画で"パパスイッチ"をONせよ!

#### 安藤哲也

(NPO法人ファザーリング・ジャパン代表)

私は子供を産まずに 45歳になりました。 でも、それは欠陥ではないよ、と言ってもらえた気がしました。 そう思ったら涙が止まりませんでした。

#### さかもと未明

(漫画家・タレント)



"僕はただ、両親と仲直りがしたくて、 この映画を作ったのかもしれません"

自分は愛されているんだろうか… 自分は本当にこの両親の子どもなんだろうか… 物心ついた時から、僕はそう思っていました。

4 歳年下の弟が右目が半分開かない状態で産まれてきたことから、 両親は弟の事で精一杯。僕は「親の愛情」というものを、知らず に育った気がしていました。

自分はなぜうまれてきたのか、何のために生きているのか… 自分の存在価値がよくわからなくなり、結婚や子どもを持つことに、全く夢を描けませんでした。

そんなある日。講演会で「赤ちゃんは雲の上で親を選んで生まれて くる」という胎内記憶の話を聞きました。

自分は好きでうまれてきたんじゃないし、子どもは親を選べないと ずっと思っていた僕は、非科学的でファンタジーな話とは思いつつ、 心から感動したのです。

自分が選んだのかも、と考えると、いまの親子関係は自分にも責任があるのでは、自分も本当は愛されていたのでは… 長らく抱いていた否定的な感情が少しずつ消えていくのを感じました。

「うまれる」ことを映画にしたい! 命の原点に向き合うことで、僕自身、両親との関係を築き直せるかもしれない……。

それから3年あまり。何十組ものご家族、ご夫婦を取材・撮影させていただいてきましたが、「うまれる」ことを知れば知るほど、その奥深さと神秘に僕は圧倒されました。

産まれてくること、そして生きることは、まさに奇跡の連続。頭では 分かっている命の尊さ、感じる機会ってどのくらいあるのでしょう? 全身の細胞全部で、映画のメッセージを受け止めていただけたらう れしいです。

企画・監督・撮影 豪田トモ

# うまれる

ナレーション: つるの剛士 企画・監督・撮影:豪田トモ 製作: インディゴ・フィルムズ / 配給・宣伝: マジックアワー © 2010 [うまれる] バー・ナーズ LLP 2010 [日本/ カラー / ID-35mm/104 分 / ビスタサイズ / DTS STEREO

2010/日本 / カラー /HD-35mm/104 分 / ヒスタサイズ /DTS ST

www.umareru.jp



命のドラマが書籍になりました。

「**5 まれる** かけがえのない、あなたへ」 豪田トモ著 PHP 研究所 1,470円(概込)

令和7年12月7日(日)やさしいじんけんシアター 入場無料/申込先着順

午前の部 いぶき館大ホール 10:00~(受付 9:30~) 定員330名 午後の部 コンパス小野川ホール 14:00~(受付13:30~) 定員170名